

第5回新病院整備可能性検討委員会の結果について（報告）

新病院整備可能性検討委員会の検討結果

※ 添付の提言書参照

（1）検討概要

○野洲地域における医療課題と今後の展望をテーマに、市内に一定の役割を担う病院の必要性を再確認し、その病院像を具体化した上でシミュレーションを行い、持続可能な病院経営が成立するかどうかを検証

＜新病院の役割＞

- ・ 中軽度の症状で入院が必要な市内患者への対応
- ・ 大学病院などの急性期で重度な医療を担う病院と自宅療養の間をつなぐ役割
- ・ 在宅医療を推進する上で診療所等の後方支援の役割

＜新病院像＞

- ・ 10診療科等、対応可能な5疾病4事業
- ・ 医療型療養病床50床を含む199床の一般急性期病院
- ・ 野洲駅周辺に立地
- ・ 施設整備費用 約57億円（ただし、用地取得費、造成費及び駐車場整備費を除く）
 - 建築面積4,400㎡、延床面積14,925㎡、敷地面積5,500～7,400㎡、立体駐車場3,000㎡
 - 医療機器10億円、情報システム（電子カルテ等）構築費3億5千万円

＜収支見込＞

- ・ 市が直接新病院を整備・運営した場合のシミュレーションは、開院10年目に黒字転換できず、開院20年後の累積損益は5億円の赤字となったが、材料費及び委託料などを統計上の民間病院並みに調達できれば、開院10年目に医業収益、病院事業損益ともに黒字となった。

（2）結論

◎市が新病院を整備し、持続可能な運営ができる可能性はある。

ただし、実現には下記の条件や課題が付帯する。

▼整備する場合の主な前提条件

- 野洲駅周辺に病院を立地
- 病院経営の透明性と効率性が担保できる運営形態
- 材料費及び委託料などを統計上の民間病院並みに調達
- 病院運営に国の交付税算入相当額と市の一般財源から一定額の繰入
 - ・ 地域の医療需要と病院機能の一致
 - ・ 医療スタッフの確保
 - ・ 内視鏡センターの設置など、特色ある病院づくり
 - ・ 地域ぐるみで病院を育てようという機運の高まり

▼懸念される外的要因の課題

- ・ 診療報酬の改定（2年毎）
- ・ 国の交付税算入ルールの変更
- ・ 消費税の増税
- ・ 償還金利の上昇

新病院整備可能性の提言を受けての今後の考え方について

(1) 前提条件の整理

- ① 立地場所
- ② 運営形態
- ③ 民間病院並みの材料等の調達
- ④ 市財政の中長期見通し

(2) 外的要因課題の整理

- 病院経営シミュレーションについては、現行制度を前提として設定されているので、今後、診療報酬の改定や消費税の増税など将来への不確定要素も高いため、病院経営の不測の事態に備えられるよう市財政の健全化への取り組みを強化する。

(3) 今後の検討課題

- ① 立地場所
 - 野洲駅周辺に病院を立地することが条件であるため、より実現可能性の高い「野洲駅南口周辺整備構想検討対象区域内」での立地を想定。同対象区域内の配置は、『野洲駅南口周辺整備構想検討委員会』において、病院整備をする方針を決定した場合を想定して検討する。
- ② 運営形態
 - 市が直接運営する方法、地方独立行政法人を設置して運営する方法、指定管理者制度により運営する方法の内から、透明性、効率性を担保できる運営形態を検討する。
- ③ 民間病院並みの材料等の調達
 - 医薬品や材料、委託料などを統計上の民間病院並みに調達が可能か、運営形態のあり方と併せて検討する。
- ④ 市財政の中長期見通し
 - 市財政の中長期的な見通しの中で、病院事業予算の確保が可能か、市民サービス全体における地域医療の優先度を比較考慮して検討する。

(4) 検討スケジュール(予定)

- 整備可否の決定時期 … 平成24年12月
 - 『(仮称)野洲市中核的医療拠点のあり方基本方針』を提案
 - ⇒ 都市基盤整備特別委員会にて審議
 - ⇒ 本会議で審議結果を委員長報告

基本構想策定
予算提案

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
可能性検討委員会	● 提言								
新病院整備可否判断						○	基本方針提案 ※ 整備すると判断した場合		
①立地場所 (南口周辺整備検討委員会)	●	○	○		○			○	
②③運営形態	課題整理								
④市財政の見通し		課題整理							
市民の関心度	市民集会等の場などにより把握(随時)								
都市基盤整備特別委員会	●—————●—————●————— (随時開催)								

審議の上、本会議
で委員長報告